

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成31年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
31-2	マルチスケールな交通連携を想定した拠点配置と交通マネジメントについての技術研究開発	東京大学 講師 日下部 貴彦	A
<p><研究の概要></p> <p>本研究では、ETC2.0 やカメラなどのセンシング技術を活用し、次世代交通システムを想定した交通結節点の配置、機能分担等の拠点機能検討のための方法論構築を目的とする。これにより、交通結節点評価方法及び、都市間交通機能、地域交通機能、防災機能などを発揮するための交通マネジメントの方法論を確立する。</p> <p><中間評価結果></p> <p>昨年の中間評価を踏まえ研究内容の絞り込み等の適切な計画の見直しがされており、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。なお、研究全体の成果目標の明確化はまだ十分ではないため、この点に留意して研究を進めていただきたい。</p> <p><参考意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究期間全体を通じて、3つの研究項目がまだ独立性が高く項目間の関係を明確にすること、研究成果目標を明確にすることに留意して研究を進めていただきたい。 ・開発された手法の到達点と適用限界を明確にしてまとめていただきたい ・サブテーマ i :レーダーチャートで可視化について、目的に応じて適切な見せ方を検討いただきたい。 ・サブテーマ ii :計画手法の開発について他の地域での類似の実験が行われており、それらの意向調査等の活用の可能性を検討いただきたい。 ・今年度に公表できなかったものを含め、研究成果を着実に発表いただきたい。 ・コロナウイルス感染拡大等により、自動運転実証実験が実施できなかった点が研究の進捗に影響している。次年度は最終年度であり、コロナウイルスの感染状況も勘案しながら実験実施の可否を早期に見極めた上で、必要に応じて代替手段の実施を行うなど、着実に研究を進めていただきたい。 ・昨年度終了課題である「対流型地域圏における自動走行システム普及に向けた新たな道路ストック評価手法」などは密接に関連する研究であることが想定されることから、研究の相乗効果が生まれるよう、研究成果の取り入れも検討いただきたい。 			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第42回新道路技術会議において審議したものである。